

第18 交通事故事件捜査

1 交通特殊事件

交通事故を偽装した保険金詐欺事件、運転免許証の不正取得事件、文書の偽変造事件及び事業活動から派生する自動車の使用者の義務違反事件等交通社会に潜在する悪質知能犯罪の検挙を重点とした捜査を推進した。

その結果は、次表のとおりである。

(1) 交通特殊事件等の検挙状況

罪種別	令和6年
交通保険金詐欺事件	8件
自動車の使用者の義務違反事件	5件
犯人隠避事件	8件
文書偽(変)造事件	1件
その他	304件
計	326件

注 その他(道路交通法違反教唆等事件・運転免許証不正取得事件など)

(2) 主要事件の検挙事例

○ 中国人犯罪グループによる道路運送法違反（有償運送の禁止）被疑事件

所属	外事課、東警察署、博多臨港警察署、粕屋警察署及び交通捜査課
事件の概要	中国人犯罪グループが、SNS等を利用して犯罪実行犯を募り、不特定の中国人に対し役割を分担させ、法定の除外事由がなく、かつ国の許可なく、不特定の訪日中国人等の需要に応じ、運送料金を徴する契約の下、常習的に個人名義の自家用普通乗用自動車を使用して、福岡県内の観光地等へ有償で運送した道路運送法違反（有償運送）事件を検挙した。
罪名等	道路運送法違反（有償運送の禁止）
被疑者数等	被疑者 9人（延べ人数）

○ 行政書士を中心とした常習詐欺グループによる自動車保険金詐欺事件

所属	小倉北警察署、折尾警察署、直方警察署及び交通捜査課
事件の概要	行政書士が、SNS等で柔道整復師に呼びかけ詐欺グループを形成し、自身が経営する行政書士事務所に相談に来た交通事故当事者をグループ構成員が経営する整骨院に紹介の上、交通事故の傷害により長期間通院したように装い、柔道整復師に虚偽の施術証明書を作成させる手口により、不正に自賠責保険の被害者請求を行い、損害賠償額を詐取していたもので、行政書士や柔道整復師等を一斉検挙した。
罪名等	詐欺（自動車保険金詐欺）
被疑者数等	被疑者 16人（延べ人数） 総送致金額 約1,600万円

第18 交通事故事件検査

2 ひき逃げ・不申告事件

注1 「ひき逃げ事件」とは、道路交通法第72条第1項前段の救護措置義務違反に係る交通事故をいう。

2 「不申告事件」とは、道路交通法第72条第1項後段の報告義務違反に係る交通事故をいう。

(1) ひき逃げ・不申告事件発生・検挙状況等の年別推移

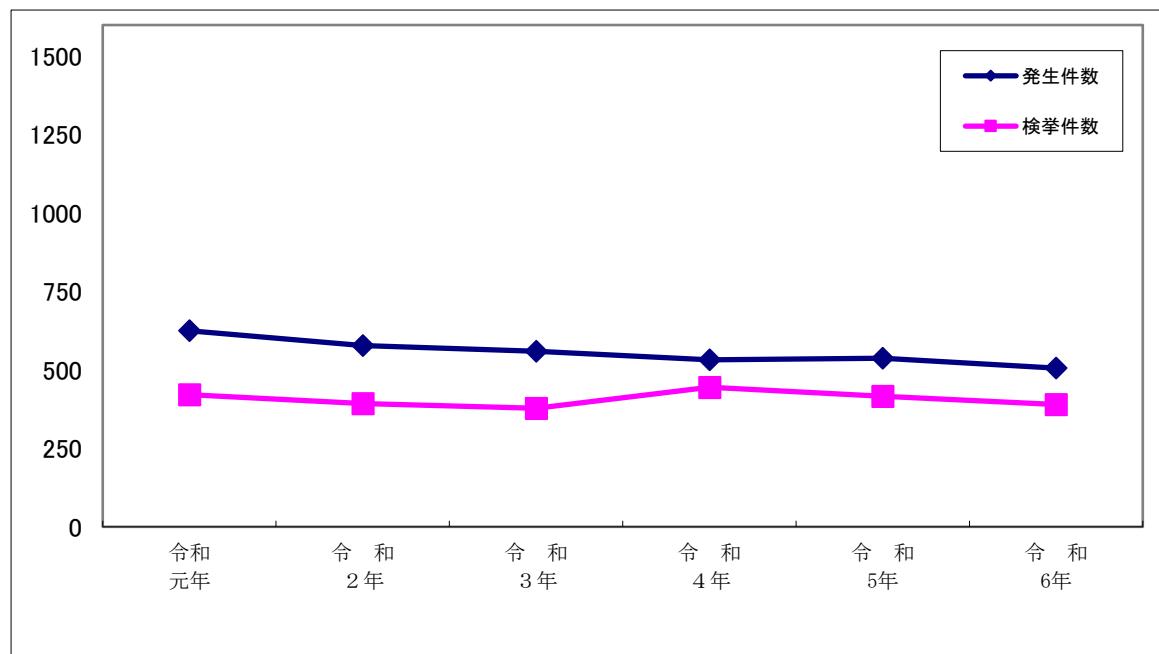
区分	発生件数(件)		死亡ひき逃げ件数(件)		検挙件数(件)		
	対全事故 比率	指数	対全死亡 事故比率	指数	検挙率	指数	
平成元年	1,216 (400)	3.4%	100	16	4.3%	100	1,062 (246) 87.3% (61.5%) 100
2年	1,032 (349)	3.1%	85	21	5.4%	131	882 (199) 85.5% (57.0%) 83
3年	1,025 (376)	3.0%	84	15	4.0%	94	879 (230) 85.8% (61.2%) 83
4年	900 (415)	2.5%	74	18	4.8%	113	729 (268) 81.0% (64.6%) 69
5年	734 (401)	2.0%	60	14	4.2%	88	533 (220) 72.6% (54.9%) 50
6年	727 (408)	1.9%	60	24	6.2%	150	521 (235) 71.7% (57.6%) 49
7年	675 (358)	1.7%	56	18	4.8%	113	488 (202) 72.3% (56.4%) 46
8年	803 (476)	1.9%	66	23	6.6%	144	474 (217) 59.0% (45.6%) 45
9年	877 (532)	1.9%	72	17	5.1%	106	494 (215) 56.3% (40.4%) 47
10年	1,073 (686)	2.2%	88	18	5.6%	113	500 (239) 46.6% (34.8%) 47
11年	895 (490)	1.8%	74	16	5.2%	100	481 (206) 53.7% (42.0%) 45
12年	976 (492)	1.9%	80	12	4.1%	75	532 (216) 54.5% (43.9%) 50
13年	942 (482)	1.9%	77	15	4.7%	94	508 (162) 53.9% (33.6%) 48
14年	951 (576)	1.9%	78	15	4.9%	94	544 (229) 57.2% (39.8%) 51
15年	1,493 (997)	2.9%	123	13	4.3%	81	587 (292) 39.3% (29.3%) 55
16年	1,694 (1,155)	3.3%	139	12	5.0%	75	544 (269) 32.1% (23.3%) 51
17年	1,976 (1,251)	3.8%	163	11	4.6%	69	691 (372) 35.0% (29.7%) 65
18年	1,860 (1,095)	3.7%	153	14	6.0%	88	741 (348) 39.8% (31.8%) 70
19年	1,427 (677)	3.1%	117	11	5.6%	69	697 (237) 48.8% (35.0%) 66
20年	1,479 (564)	3.3%	122	5	2.6%	31	756 (197) 51.1% (34.9%) 71
21年	1,267 (320)	2.9%	104	7	3.7%	44	595 (129) 47.0% (40.3%) 56
22年	1,151 (292)	2.6%	95	6	3.7%	38	589 (123) 51.2% (42.1%) 55
23年	1,153 (258)	2.7%	95	3	2.0%	19	548 (117) 47.5% (45.3%) 52
24年	1,068 (240)	2.5%	88	5	3.0%	31	489 (121) 45.8% (50.4%) 46
25年	1,067 (241)	2.4%	88	6	2.5%	38	538 (150) 50.4% (62.2%) 51
26年	982 (186)	2.4%	81	0	0.0%	0	492 (103) 50.1% (55.4%) 46
27年	913 (312)	2.3%	75	5	3.4%	31	494 (160) 54.1% (51.3%) 47
28年	890 (350)	2.4%	73	6	4.4%	38	490 (175) 55.1% (50.0%) 46
29年	880 (326)	2.5%	72	5	3.6%	31	546 (193) 62.0% (59.2%) 51
30年	716 (255)	2.3%	59	8	6.0%	50	469 (178) 65.5% (69.8%) 44
令和元年	625 (236)	2.3%	51	4	4.3%	25	421 (165) 67.4% (69.9%) 40
令和2年	578 (262)	2.7%	48	2	2.2%	13	393 (179) 68.0% (68.3%) 37
令和3年	560 (230)	2.8%	46	5	5.1%	31	378 (159) 67.5% (69.1%) 36
令和4年	532 (241)	2.7%	44	1	1.4%	6	445 (189) 83.6% (78.4%) 42
令和5年	537 (230)	2.7%	44	2	1.9%	13	416 (178) 77.5% (77.4%) 39
令和6年	506 (223)	2.7%	42	3	3.3%	19	390 (160) 77.1% (71.7%) 37

注1 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

2 「指数」は、平成元年の各件数を100とする。

第18 交通事故事件捜査

(2) 過去5年のひき逃げ・不申告事件発生・検挙状況



区分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
発生件数	625 (236)	578 (262)	560 (230)	532 (241)	537 (230)	506 (223)
指標	100	92	90	85	86	81
死亡ひき逃げ件数	4	2	5	1	2	3
対全事故比率	2.3%	2.7%	2.8%	2.7%	2.7%	2.7%
検挙件数	421 (165)	393 (179)	378 (159)	445 (189)	416 (178)	390 (160)
検挙率	67.4% (69.9%)	68.0% (68.3%)	67.5% (69.1%)	83.6% (78.4%)	77.5% (77.4%)	77.1% (71.7%)

注1 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

2 「指標」は、令和元年の各件数を100とする。

第18 交通事故事件検査

(3) 令和6年中のひき逃げ・不申告事件

ア ひき逃げ・不申告事件の発生・検挙状況

ひき逃げ・不申告事件の発生件数は506件で、前年に比べ31件(6%)減少した。
検挙件数は390件で、検挙率は、77.1%と前年に比べ0.4ポイント減少した。

○ 令和6年中のひき逃げ・不申告事件の発生・検挙状況

区分	発生件数	検挙件数	検挙率
死 亡 事 故	4 (3)	1 (1)	25.0% (33.3%)
重 傷 事 故	18 (16)	14 (10)	77.8% (62.5%)
軽 傷 事 故	484 (204)	375 (149)	77.5% (73.0%)
合 計	506 (223)	390 (160)	77.1% (71.7%)

注 表中の()内は、「ひき逃げ事件」を内数で表す。

○ ひき逃げ・不申告事件の前年比

区分	発 生			検 挙			
	令和6年	前年比	増減率	令和6年	検挙率	前年比 (ポイント)	
ひき逃げ	死 亡	3	+1	+50.0%	1	33.3%	-116.7
	重 傷	16	+4	+33.3%	10	62.5%	-29.2
	軽 傷	204	-12	-5.6%	149	73.0%	-2.9
	計	223	-7	-3.0%	160	71.7%	-5.6
不 申 告	死 亡	1	±0	±0.0%	0	0.0%	-100.0
	重 傷	2	-4	-66.7%	4	200.0%	+133.3
	軽 傷	280	-20	-6.7%	226	80.7%	+3.0
	計	283	-24	-7.8%	230	81.3%	+3.7
合 計	死 亡	4	+1	+33.3%	1	25.0%	-108.3
	重 傷	18	±0	±0.0%	14	77.8%	-5.6
	軽 傷	484	-32	-6.2%	375	77.5%	+0.5
	計	506	-31	-5.8%	390	77.1%	-0.4

第18 交通事故事件検査

イ 令和6年中のひき逃げ事件

注 構成率については四捨五入のため、各項目の合計は必ずしも100%とは限らない。

(ア) ひき逃げ事件の発生状況

○ 時間別発生状況

区分	午 前						午 後						計
	時 間 帯	00～02時	02～04時	04～06時	06～08時	08～10時	10～12時	12～14時	14～16時	16～18時	18～20時	20～22時	22～24時
発生件数													
合 計	11	8	6	29	28	15	9	18	37	37	14	11	223
構 成 率	4.9%	3.6%	2.7%	13.0%	12.6%	6.7%	4.0%	8.1%	16.6%	16.6%	6.3%	4.9%	100.0%
内訳	死 亡	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	重 傷	2	1	1	4	1	1	0	0	2	3	0	16
	軽 傷	8	6	5	25	27	14	9	18	35	33	14	204

(イ) ひき逃げ事件検挙の端緒等

ひき逃げ事件検挙の端緒は、「検索」などの警察活動によるものが55件(34.4%)、「目撃者の通報」などの民間協力によるものが105件(65.6%)であった。

ひき逃げ事件の逃走動機は、「被害者の被害が大したことないと思った」「ひき逃げ・あて逃げの事実否認」「逃げてしまえば分からんと思ったから」の順であった。

○ 検挙の端緒別状況

端緒別 区分	警 察 活 動						民 間 協 力				合 計	
	追跡 ・ 検問 ・ 職質	聞 き 込 み	警 察 檢 索	現 場 の 遺 留 品 等	そ の 他	小 計	目 擊 者 の 通 報	目 擊 者 等 の 追 跡	被 害 者 等 の 申 告	そ の 他		
件 数	7	5	8	3	32	55	55	6	15	29	160	
構 成 率	4.4%	3.1%	5.0%	1.9%	20.0%	34.4%	34.4%	3.8%	9.4%	18.1%	65.6%	100.0%

注 警察活動の「その他」とは、防犯カメラ映像解析など、民間協力の「その他」とは防犯カメラ映像の提供など。

○ ひき逃げ事件の逃走動機

・被害者の被害が大したことないと思ったから	18.8%
・ひき逃げ・あて逃げの事実否認	12.6%
・事故を起こしたことに半信半疑であった	10.6%
・飲酒運転中であったから	6.9%
・その他	51.1%

注 「その他」とは、刑事処分又は行政処分を恐れたから、飲酒運転であったからなど。